



故郷

中村陽人

四方にそびゆる山々は 御嶽 乗鞍 駒ヶ岳
浅間はことに活火山 いずれも国の鎮めなり
流れ淀まず行く水は 北に犀川 千曲川
南に木曾川 天竜川 これまた国の固めなり

これは私の故郷の歌「信濃の国」の2番の歌詞である。私の愛すべき故郷の風景は、福島と驚くほどよく似ている。四方を山々に囲まれ、すぐ近くには信夫山や花見山が、そして少し離れた所には、日本百名山の安達太良山や吾妻山が悠然と構えている。県の西へ向かえば、同じく百名山の磐梯山と会津駒ヶ岳も控えている。ひとたび目を転じれば、市内には阿武隈川や荒川が流れ、阿賀野川の源流である荒海川も県内を流れる。山や川だけではない。県が大きく土地ごとの特色が強いところ、隣接県が多いところ、盆地が多いため夏は暑く冬は寒いところ、温泉が多いところ、蕎麦が有名なところ、果物が豊富など、電車やバスが不便なところ……共通点はずっともつとある。とても初めての土地とは思えない親近感を感じるのだ。

おかげで、福島へ来た私は違和感なくすぐに福島へ溶け込んだ（つもりである）。これまでの学生生活とはまるで違う状況に戸惑いや焦りを感じることも多いが、この福島の空気を吸えば、何だか大地に根を下ろしたような安心感がやってくる。先生方や事務の方から暖かいサポートをもらい、誠実な学生さんと向き合う日々は本当に充実している。

先日テレビで、群馬県には「上毛カルタ」というものがあることを知った。このカルタは群馬の歴史、文化、地理、風物などが幅広く読まれ、群馬県の出身者ならたいていこのカルタを暗記しているそうだ。これは、冒頭に書いた長野県の「信濃の国」とちょうど同じようなものに当たる。日本ではほぼすべての都道府県に県歌があるものの、その多くは住民にさえ知られていない。しかし、長野県にあって「信濃の国」を知らない人などほとんどいない。第2次大戦後、長野県を南北に分割しようとする意見書が出されたときに、分割に反対する側から突如として「信濃の国」の大合唱が沸き起こり、分割案を撤回させたという逸話もある。「信濃の国」も「上毛カルタ」のその県民のアイデンティティを形作るうえで非常に大きな役割を果たしている。

これから私にとって福島は第二の故郷である。福島にはどんなものがあるのだろうか。研究や教育の傍ら、福島を故郷とする人のアイデンティティにつながるようなものを一つ一つ見つけて、大事にしていきたいと思う。

